

アルファ・ウイン 企業調査レポート

デジタルメディアプロフェッショナル (3652 東証マザーズ) 発行日：2021/2/22

アルファ・ウイン 調査部
<http://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ グラフィックス技術に特化した研究開発型ファブレス半導体ベンダー

・デジタルメディアプロフェッショナル（以下、同社）は、同社が独自に開発したグラフィックス技術をライセンス供与、またはこれを組み込んだ LSI 製品の生産を外部委託し販売する研究開発型ファブレス半導体ベンダーである。近年では人工知能（AI）関連のソフトウェア製品のラインナップの拡充、受託開発にも注力している。

◆ 2021 年 3 月期第 3 四半期業績

- ・同社の 2021/3 期第 3 四半期累計連結（以下、Q3）業績は、売上高 834 百万円（前年同期単体比 26.1%増）、営業損失 294 百万円（前年同期単体損失額 159 百万円）、経常損失 242 百万円（同 166 百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失 244 百万円（同 167 百万円）であった。同社は 2020 年 4 月にベトナムに完全子会社を設立し、2021/3 期 Q1 より連結財務諸表を作成しているが、現段階におけるベトナムの子会社の売上高計上先は親会社のみで外部売上高はない。
- ・事業別売上高では、IP コアライセンス事業は 101 百万円（前年同期単体比 11.4%減）。AI を活用した車両（ロボティックビークル）向けの新規ライセンス契約や AI による安全運転支援に係るランニングロイヤリティによる売上計上があったものの、デジタルカメラを中心とするデジタル機器向けランニングロイヤリティ収入の落ち込みに一部顧客の開発投資及び開発プロジェクトの抑制や先送りによる新規ライセンス販売の不振が重なり減収であった。
- ・LSI 製品事業は 600 百万円（前年同期単体比 80.2%増）。パチンコ・パチスロ向け画像処理プロセッサ「RS1」の大幅増収に加え、組み込み機器向け AI FPGA（書換え可能な論理回路 LSI）モジュール「ZIA C3」の売上を計上した。
- ・プロフェッショナルサービス事業は 132 百万円（前年同期単体比 38.3%減）。国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）向け受託収入、及びロボティックビークル向け等の AI 関連受託開発サービスを売上計上したものの、一部顧客の開発投資及び開発プロジェクトの抑制や先送りの影響により受託開発が低迷し減収であった。
- ・2020 年 10 月～12 月期から開始予定であった、ZIA™ Cloud SAFE によるサブスクリプションサービスは、2021 年 1 月～3 月期からの開始となった。2020 年 7 月～9 月期にスタートした、AI に係るランニングロイヤリティのサブスクリプションサービスは、10 月～12 月期にかけて契約数が増大傾向にあり、規模が拡大中である。
- ・売上総利益は 266 百万円（前年同期単体比 9.6%減）であった。相対的に採算性の低い LSI 製品事業の売上構成比上昇により売上総利益率は 31.9%と前年同期単体に比べ 12.6%ポイント低下した。販売費及び一般管理費（以下、販管費）は、研究開発費が前年同期単体比 66.2%増の 216 百万円へと積み上がったことを主因に同 23.6%増の 560 百万円となった。売上総利益減少に販管費増が重なり、営業損失額は 294 百万円と前年同期単体の 159 百万円の損失から拡大した。
- ・経常損失の悪化幅は営業損失の悪化幅に比べ縮小した。営業外収支で、新株発行費（56 百万円）の剥落に NEDO 向け助成金収入（53 百万円）の計上があったためである。

◆ 引合い増で開発要員繁忙

- ・同社が NVIDIA 社のパートナープログラム「NVIDIA Partner Network」に参画する、とのリリースが 2020 年 11 月にあった。この参画は、同社が NVIDIA 社、及びその代理店のネットワークを通じて同社の AI 関連のソフトウェア、及びソリューションを提案する新たな機会を獲得したことを意味する。NVIDIA 社の顧客からの引合いは PoC (Proof of Concept : 概念実証) の受注を含めて増加中であり、用途に応じた数多くの AI 関連ソフトウェア製品を揃えている同社にとって、確かなビジネスチャンスが広がっていると思われる。
- ・こうした引合い増を受けて開発担当の繁忙度合いが高まっている模様である。今後は開発要員数の充足が要諦となるわけだが、開発要員数は 2019/3 期末 29 名が 20/3 期末 40 名、2021/3 期末では 50 名予想と着実に増強されている。

◆ 自己資本比率は高い水準を維持

- ・自己資本比率は 2020/3 期末 (単体) 92.2%、2021/3 期 Q3 末 (連結) 90.9%と高い水準を維持している。現金及び預金 (Q3 末連結) は 2,005 百万円と、2020/3 期 (単体) の売上高の 1.5 倍に相当する。

◆ 2021 年 3 月期業績予想

- ・同社は、2021/3 期連結業績予想を据え置いた。即ち、売上高 1,500 百万円 (前年同期単体比 12.9%増)、営業損失 150 百万円 (前年同期単体 82 百万円の利益)、経常損失 100 百万円 (同 85 百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失 100 百万円 (同 65 百万円の利益) である。事業別売上高予想は開示していない。配当予想は期初より無配継続としている。
- ・アルファ・ウイン調査部 (以下、当調査部) の 2021/3 期連結業績予想も、前回予想を踏襲する。具体的には、売上高 1,500 百万円、営業損失 150 百万円、経常損失 100 百万円、親会社株主に帰属する当期純損失 100 百万円、会社計画と同水準を予想した。
- ・事業別売上高予想については 3Q 決算を踏まえて前回予想を若干修正した。IP コアライセンス事業は 170 百万円 (前年同期単体比 55.3%減、前回予想 150 百万円)、LSI 製品事業は 1,020 百万円 (同 84.4%増、同 1,000 百万円)、プロフェッショナルサービス事業は 310 百万円 (同 21.3%減、同 350 百万円) とした。
- ・全社ベースでは前期単体比で増収を確保するものの、主に採算性の高い IP コアライセンス事業の減収予想が響き、営業利益は 150 百万円の損失見込みである。営業外収支において NEDO からの助成金収入が前期同様に見込まれる一方で、第三者割当増資の実施に係る諸費用が剥落するため、経常損失は営業損失より縮小する予想としている。

◆ 2022 年 3 月期業績予想

- ・当調査部の 2022/3 期業績予想についても前回予想を踏襲した。具体的には、売上高 2,200 百万円 (2021/3 期当調査部予想比 46.7%増)、営業利益 65 百万円 (同 150 百万円の損失)、経常利益 65 百万円 (同 100 百万円の損失)、親会社株主に帰属する当期純利益 52 百万円 (同 100 百万円の損失) との予想である。事業別売上高予想についても前回予想と同じで、IP コアライセンス事業は 250 百万円 (同 47.1%増)、LSI 製品事業は 1,500 百万円 (同 47.1%増)、プロフェッショナルサービス事業は 450 百万円 (同 45.2%増) とした。
- ・IP コアライセンス事業では、2021/3 期から開始した 2 つのサブスクリプションサービスが通期寄与見込みである。IP コアライセンス事業、及びプロフェッショナルサービス事業も、コロナ禍によるプロジェクト遅延等のマイナス影響が 2021/3 期の 1 月～3 月期から薄らいでおり、期初より好スタートとなることを想定している。LSI 製品事業においては、顧客による新機種 (パチンコ・パチスロ) 開発が本格化

すると想定し、画像処理プロセッサ「RS1」の出荷増大を見込んでいる。

- ・営業外収支予想は、NEDO から助成金収入を得ていた事業の契約期間が 2021/3 期で終了することを受けて 0 百万円を見込む。そのため、経常利益予想は営業利益予想と同額となる予想としている。

【 3652 デジタルメディアプロフェッショナル 業種：情報・通信業 】

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2019/3	1,086	11.6	28	-58.5	33	-49.9	35	-67.8	12.54	710.70	0.0
2020/3	1,328	22.2	82	185.6	85	155.4	65	86.0	21.21	1,131.88	0.0
2021/3 CE	1,500	12.9	-150	-	-100	-	-100	-	-31.82	-	0.0
2021/3 E	1,500	12.9	-150	-	-100	-	-100	-	-31.82	1,093.35	0.0
2022/3 E	2,200	46.7	65	-	65	-	52	-	16.51	1,109.86	0.0
2020/3 Q1	61	-55.6	-154	-	-195	-	-195	-	-66.67	-	-
2020/3 Q2	293	-16.5	-207	-	-231	-	-231	-	-76.30	-	0.0
2020/3 Q3	661	34.1	-159	-	-166	-	-167	-	-54.62	-	-
2021/3 Q1	229	275.0	-114	-	-93	-	-93	-	-29.95	-	-
2021/3 Q2	533	81.8	-191	-	-155	-	-156	-	-49.84	-	0.0
2021/3 Q3	834	26.1	-294	-	-242	-	-244	-	-77.75	-	-

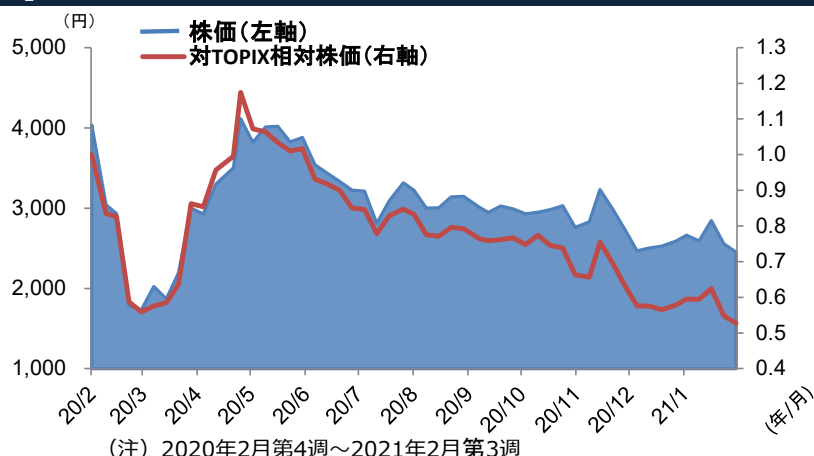
(注) CE：会社予想、E：アルファ・ウイン調査部予想、Q2及びQ3は累計会計期間
2021/3期より連結決算で、2021/3期Q1決算以降の前期比及び前年同期比は単体比較

【 株価・バリュエーション指標：3652 デジタルメディアプロフェッショナル 】 図表 B

項目	2021/2/19	項目	PER (倍)	PBR (倍)	配当利回り	配当性向
株価 (円)	2,450	前期実績	115.5	2.2	-	-
発行済株式数 (千株)	3,152	今期予想	-	2.2	-	-
時価総額 (百万円)	7,723	末期予想	148.4	2.2	-	-
潜在株式数 (千株)	0	前期末自己資本比率		92.2%	前期ROE	2.4%

(注) 予想はアルファ・ウイン調査部予想

【 株価チャート (週末値) 3652 デジタルメディアプロフェッショナル 】 図表 C



【パフォーマンス】		
期間	リターン	対TOPIX
1か月	-5.4%	-11.3%
3か月	-26.4%	-33.1%
6か月	-20.7%	-33.5%
12か月	-19.4%	-36.9%

(注) 月末値が基本、直近1か月は
1/29と2/19との比較

ショートレポート

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

ディスクレマー

アルファ・ウイン企業調査レポート（以下、本レポート）は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社（以下、弊社）が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。（更新された）最新のレポートは、弊社のホームページ（<http://www.awincap.com/>）にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.jp】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務は負いません。